

令和7年度東京都水道局事業評価委員会の意見及び助言

1 対象事業

水道水源開発施設整備事業

2 委員

委員長	東京都立大学	特任教授	小泉 明
委 員	東京大学大学院工学系研究科	教授	小熊 久美子
委 員	東京大学大学院工学系研究科	准教授	橋本 崇史
委 員	株式会社日本経済研究所 公共デザイン本部長		望月 美穂

(敬称略。委員長を除く委員は五十音順)

3 委員会開催の状況

令和7年12月2日（火曜日）

事業評価及び対応方針（案）の説明、質疑等

事業評価及び対応方針（案）についての意見及び助言

4 意見及び助言

（1）事業評価及び対応方針（案）に関する意見及び助言

- ・定性的評価及び費用対効果分析の結果から、東京都水道局における霞ヶ浦導水事業の継続は妥当である。
- ・便益は定量的なもののみを計上しているが、定性的なものは算定していないため、便益はさらに大きくなる可能性がある。

（2）その他の意見及び助言

- ・首都東京にとって、都民がこの先も安心して生活できるよう、適切に水源を確保していくことが重要である。
- ・最近の雨の降り方は偏在化しており、気候変動が進行する中で、首都東京が那珂川も含めた多くの系統に水源を持つことは非常に価値がある。
- ・今後、比率が増加する可能性があるインバウンド由来の水使用や、昨今の公共事業における急激な物価変動について、注視していくべきである。